

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

6

1

2

1

2

2

11

9

2

合計 30

事業所番号	4674000148
法人名	アルテンハイム鶴宮園 グループホームうらら
事業所名	社会福祉法人脩寿会
訪問調査日	平成20年2月29日
評価確定日	平成20年6月2日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4674000148
法人名	アルテンハイム鶴宮園 グループホームうらら
事業所名	社会福祉法人脩寿会
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾4088番地1 (電話) 0996-59-8088

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年6月2日

【情報提供票より】(平成20年 1月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺陸屋根造り(1号館)、木造平屋建(2号館) 2階建ての 階 ~ 階部分
------	---

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	円	住居費(1日あたり750円)、 管理費(水道光熱費含)1日あたり100円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	10名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林田内科、薩摩郡医師会病院、たきがわ歯科、介護老人保健施設パラディーノほたるの里
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームうらら(アルテンハイム鶴宮園に併設)は紫尾連山に囲まれた自然豊かな地にある。園長の福祉観「利用者様が主体である。」を、モットーに利用者一人ひとりのペースを大切にしている。職員は困難事例に対しても他人事とせず、解決に全員で取り組むチームワークの良さが特徴である。管理者は地域性を理解し、無記名アンケートを活用、家族の意見を十分引き出し、家族との情報共有及び信頼関係ができています。地域に愛され地域から必要とされる「グループホーム うらら」めざし、努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題の研修については毎月1回研修を企画して自主的に学ぶ環境を作っている。緊急時の手当等も転倒・嘔吐などの事例を経て不安軽減達成につなげている。利用者の過去の生活歴や人柄の情報収集についても家族との信頼関係を強固にし、気づきシート活用により、取り組みができています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員、一人ひとりの目線で自己評価している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議も5回を重ね、参加者の意見が反映されている。不審者・行方不明者の対応について討議した結果、まず役所に通報し防災無線にて呼びかけが出来るようになった。又、不審者・暴力行為のある人から身を守る為の防具を紹介してもらい、設置している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族も高齢で負担が大きいと云う事で家族会はできていない。家族へ無記名アンケートを実施して意見の収集を図っている。家族面談の中から意見をもらい、利用者ごとの面会簿が設置されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のボランティアの受け入れや生き生きサロン・老人会・子ども会との交流など行っている。地域行事への参加も多くなっている。地域において利用者の家族が面会のお礼を言うことによって、面会者も多くなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の思いがこめられた理念を掲げている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフ会議、毎日の申し送りの中で唱和し、認識して日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、屋外活動など地域の方々とふれ合っている。子供会・婦人団体・高齢者サロンの来訪があり、交流できている。地域行事(もぐらうち・紫尾の神社祭)にはおにぎり等を提供し、協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価に取り組み、振り返りきっかけとし、認識を深めている。外部評価は運営推進会議や職員会議に出して検討・改善に取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の代表者・利用者家族・法人職員の参加を得て奇数月の第3木曜日に開催されている。報告の中から利用者の日々の暮らしを身近に感じてもらったり、災害や不審者・行方不明者の対応などの意見をもらって地域との関わりが密になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場に出向いたり、ホームに来てもらったりして連絡・相談等の交流ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりを家族面談時に報告している。鶴宮園だよりやうらら便りを発行し日常の様子を伝えている。金銭管理は個人台帳を作成し、定期的に確認、押印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から「利用者の面会者を知りたい」との要望があり、夫々の居室に面会簿を置いている。名簿の記入者に家族がお礼を述べる事で面会者の数が増えている。家族会はないが、無記名アンケートを実施し、家族意見反映につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限度に配慮し、なじみの関係の重要性を認識している。職員は、ほとんど地元の人を採用し、平日頃よりなじみの関係にある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回勉強会を実施している。研修内容も職員のニーズを満たすもので夜間実施にもかかわらず勤務者以外は全員出席している。法人外の研修参加者は研修後、報告・発表し、共有できている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は鹿児島県GH連絡協議会やいずみ川薩地区支部会に参加している。職員は同業者との交流はもっていない。		同業者との交流に努め、自己研鑽の努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入居を希望する利用者が多いのでサービス開始には自宅訪問や事前調査を行っている。その情報を職員と共有し、面会・外出・外泊しながら徐々に馴染めるよう、支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話・四季ごとの習わし・食事の準備・野菜作り・洗濯たたみ等、日常生活を共に過ごす中で職員は人生の先輩である利用者から学ぶ事も多く、ささえ合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしについての希望・意向は会話の中から聞き取り、態度からも把握に努めている。気づきノートを活用し、共有化に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3～6ヶ月毎にケア会議を持ち、利用者の思いや暮らし、リスクについて担当者会議を行い、共有し、プランを作成している。利用者主体の暮らしを反映したケアプランができています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月に1回見直しをしている。突発的な変更が生じた場合にも職員とケア会議をもち、家族面談を行い、プラン作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・薬とり・外出・外泊の希望に沿った支援をしている。ホームを年1~2回高齢者いきいきサロンの場として提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の医療機関を継続している。主治医による3ヶ月毎の定期受診・協力医療機関による年に1回のX線検査・心電図・年2回の採血検査を実施している。夜間帯の緊急対応医院とも連携がとれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について利用開始時より繰り返し、家族、かかりつけ医、職員と十分協議し方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねない言葉かけや対応を朝礼やスタッフ会議で意識づけしている。個人情報保護にも全スタッフが意識して取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に利用者の意思確認を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・お茶いれ・茶碗洗い等、利用者の能力に応じて職員と一緒にやっている。一つのテーブルを囲んで、穏やかな表情で食事し、ほとんど全量摂取している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回、入浴を促している。午後、利用者一人ひとりがゆっくり楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦など気づきシートを作成し、日常生活の役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。(花の水替え・お茶碗洗い・菜園の草取り・収穫・掃除・洗濯など)		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブで、足湯、近くの公園にでかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵はかけず、自由に出入りできている。死角があるのでチャイムを取り付け、見守りを重視している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施している。夜勤者(1・2号館)は非難経路・誘導・通報など確認・意識して勤務に入っている。今後は地域も加えた災害対策を予定している。法人と共有の食料備蓄もできている。入り口のポストにたすきを保管し、利用者にとすきをかけて人員把握に役立つ準備ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、水分量のチェック表があり支援できている。		献立表を管理栄養士にチェックして貰うなど、定期的に専門家の意見を取り入れる事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には植木があり、ウッドデッキもある。廊下は出窓に季節の花が生けてあり、ぬいぐるみや季節の置物などを置いて家庭的雰囲気を作っている。ホールにはソファもあり利用者はゆったりと過ごしている。和室や家族相談室もあり部屋数も多く明るい環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや寝具、茶碗など、利用者が一番大切にしていたものを持ち込んで居心地よく過ごせるように支援している。家族の写真や利用者の家族にわかるように面会簿がおいてある。		